

二〇〇三年二月刊行

# 中近世都市形態史論

土本俊和（信州大学工学部教授）著

中央公論美術出版

## 目次

### 序 無数の小屋

#### 総論

- 1 中近世京都の全体像
- 2 「町」と「郷」
- 3 ウラ
- 4 ウダツ
- 5 小屋と町屋
- 6 掘立棟持柱構造
- 7 短冊形地割
- 8 水系と町割
- 9 家屋敷
- 10 都市不動産
- 11 地子免除
- 12 中世から近世へ

#### 各論

##### I 元亀四年(一五七三)以前

1 中世奈良における「郷」の形態

2 家から家屋敷へ—戦国・織豊期京都上京における誓願寺門前の川の上の家—

##### II 元亀四年(一五七三)以降、天正一九年(一五九二)以前

3 陣取放火と地子免除—織田期京都上京における寺社本所領の解体過程—

4 織豊期京都の小屋と町屋—割長屋を原型とする短冊形地割の形成過程—

5 小屋がけによる町—聚楽第建設に促された天正末京都の都市形成—

6 織豊期京都における上京と下京—洛中検地による家屋敷指出からみた差異—

7 天正二二六年・京都下京・古町

8 天正二五年・京都上京・川の上

##### III 天正一九年(一五九二)以降、寛文七年(一六六七)以前

9 近世京都における祇園御旅所の成立と変容—領主的土地所有の解体と隣地境界線の生成—

10 一七世紀前半京都の都市膨張—地尻年貢地の形態と成立過程—

11 洛中地子赦免と町屋—建物先行型による短冊形地割の形成過程—

12 近世初頭京都の家と屋敷—町式目と町地による家屋敷売買規定から再検討—

### 本書の特色

本書の特色は、都市あるいは都市的なるものを形態の変容として把握したことにある。とりわけ上部構造が基礎を規定するといった変容に注目した本書は、この過程を建物先行型と定義した。まず微視的なスケールを捉え、より巨視的なスケールを段階的に明らかにした上で、都市の全体像を把握し、この形態生成の論理にしたがって時代を区分した。その結果、無数の小屋からなる堂々たるミヤコ・京都の姿を示すに至った。以上の一連の考察をまとめたものが本書である。

### 刊行の経緯

本書は、日本建築史および日本都市史という研究分野の一成果である。建築を歴史的に考察する建築史は、神社や仏閣といった宗教建築あるいは寝殿造や書院造といった上層住宅をまず扱ってきたが、後に庶民住宅や都市へとその対象を広げた。庶民住宅と都市を積極的に扱った本書は、その内容に以下の獨創性がある。第一、住宅といったミクロのスケールから都市といったマクロのスケールに至る段階を、形態を通じて連続的に把握した。第二、建築に加えて土地を対象化した上で、建物と土地の関係を積極的に考察した。第三、住宅から都市まで、建物と土地の相互関係を形態が生成される過程として捉えることにより、形態生成に即した本格的な都市形態史を日本にて樹立した。第四、さらにこの形態生成を成り立たせた歴史潮流を捉えることにより、単なる形態生成にとどまらない歴史学研究的対象と方法を創造した。第五、中近世京都の研究に対して諸々の新しい方法と知見を付け加えた。第六、形態生成に即した歴史的潮流を捕捉することにより、形態史的な観点から時代区分を明確にした。

以上の獨創性をもつ本書は、個々の住宅から都市の全体像までを対象にして、建物と土地に関する形態生成を歴史的に扱ったものである。その結果、建築学と日本史に関する従来の学説を覆す数々の論点を提出した。まず、建築学において、敷地境界線があらかじめ施された後に個々の敷地のなかに建物がたつという過程(本書はこれを地割先行型と命名)のみによって、形態生成のすべてが説明されてきた。しかし、敷地境界ができる前に建物群が土地の上に立地した後から個々の建物の形態に応じて敷地境界が漸進的に形成される過程(建物先行型と命名)を想定し、その過程に合致する実例を示した。この過程は、形態生成に関する従来の知識を大きく塗り替えるものであった。つぎに、日本史に関して、中世後期から近代初頭までを扱った本書は主に二つの決定的な画期を鮮明にした。その一つは、元亀四年(一五七三)から天正一九年(一五九二)までの織豊期である。この期間の内実を根底から問い正した結果、上京放火と洛中地子免除の歴史の意義を浮き彫りにした。いま一つは、寛文七年(一六六七)から延宝七年(一六七九)までである。それ以前は建物先行型が支配的であったが、以後、地割先行型に移行する。

本書は、端的にいえば、中世後期から近代初頭までの展開過程を、建物と土地との相互関係に基づく形態生成という観点にて完成さ



日本を代表する中近世都市・京都に即して、都市形態の生成過程を捉える「都市形態史」という新しい学問的アプローチにより、膨大な史料を駆使して従来の都市の歴史研究に新しい観点を提出した大著である



A4判上製函入 本文五七〇頁 挿図三〇点  
定価(本体三五〇〇〇円十税)  
ISBN4-8055-0428-5 C3052

#### 著者略歴

#### 土本俊和(つちもと・としかず)

1961年東京生まれ。東京大学工学部建築学科卒業。東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程中退。株式会社国建建築設計部首里城復元グループ勤務。1991年土本都市建築研究室開設。東京工芸大学工学部助手、信州大学工学部助教授、英国・レスター大学都市史研究センター客員研究員を経て、2001年10月より信州大学工学部教授。

#### 主な著書

『復元日本大観6 民家と町並み』世界文化社、1989年(共著)

『図集 日本都市史』東京大学出版会、1993年(共著)他

#### 主な受賞

IFHP国際学生コンペ最優秀賞(共作)、1987年10月

日本建築学会奨励賞、1996年9月

#### ◆建築史・都市史関連書目◆

#### 日本中世住宅の研究〔新訂〕

B5判上製函入  
本文六二〇頁 川上 貢著

定価(本体三三、〇〇〇円十税)

寝殿造から書院造が成立していくその変遷過程を論じた歴史的名著。著者自らがその後の研究成果を補訂、付編に盛り込んだ決定版。  
ISBN4-8055-0418-8 C3052

#### 近世都市空間の原景

B5判上製函入  
本文四六八頁 伊藤裕久著

定価(本体二四、〇〇〇円十税)

近世都市空間の原基的形態をなす集住環境について、文献史料、フィールド調査から具体的な復原的考察を加え、その空間構造の特徴及び成立・変容過程について検討する。  
ISBN4-8055-0434-X C3052

#### 近世武家集団と都市・建築

A5判上製函  
入本文三〇六頁 藤川昌樹著

定価(本体九、五〇〇円十税)

本書は武家地・武家屋敷に着目し、近世の都市史・都市建築像の解明に新たな知見と基盤を与えようとするものである。  
ISBN4-8055-0411-0 C3052

#### 日本古代中世住宅史論

A5判上製函  
入本文三五二頁 藤田勝也著

定価(本体二〇、〇〇〇円十税)

古代末・中世初頭の貴族住宅の建築的変化、時代的特質を解明し、日本史学・国文学などの関連分野に新たな論点を提起する論文集。  
ISBN4-8055-0429-3 C3052

お取扱いは

# 中央公論美術出版

<http://www.chukobi.co.jp>

〒104-0031 東京都中央区京橋2-8-7読売中公ビル内

電話 03-3561-5993 FAX 03-3561-5834